

木造用鉄筋コンクリート構造配筋標準図

1. 一般事項

(1) コンクリート

- ◎ コンクリートはJIS認定工場の製品とし施工に関してはJASS5-2003による。
- ◎ セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
- ◎ 計画調査は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
- ◎ 寒中、暑中コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
- ◎ 強度試験供試体（JASS5T-603）は、現場水中養生とし、採取は打ち込み工程及び150m3につき1回を標準とする。1回に採取する供試体は、適当な間隔において、必要本数採取する。尚、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、4週間用3本とする。
- ◎ ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、床スラブにおいては、コンクリートの自由落下高さは1m以下とする。打ち込み継続中における打ち継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は2.5時間25℃以上の場合は2時間以内とする。

(2) 鉄筋

- ◎ 鉄筋はJIS G3112の規格品を標準とし施工に関してはJASS5-1997による。
- ◎ 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」による。
- ◎ D19未満は、すべて重ね継手とする。継手(D19以上)をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
- ◎ ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接した圧接箇所ごと(200箇所を越えるときは、200箇所ごと)に1回行い、1回の試験は5本とする。
- ◎ 柱の帯筋(HOOP)の加工方法は、□H型(タガ型) □W型(溶接型) □S型(スパイラル型)とする。

(3) 型枠

- ◎ 型枠の材料は合板12mmを標準とし、施工に関してはJASS5-2003による。

2. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	備考
図				スラブ筋・壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込むT形およびL形梁のキャップタイにのみ用いる。
鉄筋の余長	4d以上	6d以上	8d以上 (※4d以上)	
折曲げ内寸法RはSR235は3d以上、SD295、SD345は4d以上				※片持スラブ上端筋の先端

(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状、鉄筋の折曲げ角度90°以下

図	使用箇所	鉄筋径 d	鉄筋の種類	折曲げ内のり R
	a) 帯筋 あばら筋 スパイラル筋	各種	SR235	3d以上
			SD295、SD345	4d以上
	b) スラブ筋 壁筋	φ16、D16以下	各種	5d以上
		φ19、D19以下		6d以上
	c) a)、b) 以外の鉄筋	φ28以下、D25以下	各種	6d以上
		φ32以下、D41以下		8d以上

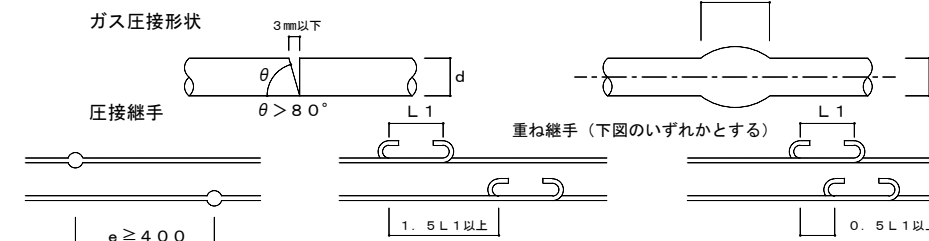
(3) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度の範囲(N/mm ²)	定着の長さ			特別の定着及び重ね継手の長さ(L1)
		一般(L2)	下端筋(L3)		
			小梁	スラブ	
SR235	21.0以上	35dフックつき	25dフックつき	15cmフックつき	35dフックつき
	27.0(24.0)以下				
	13.5以上 21.0未満	45dフックつき			45dフックつき
SD295	21.0以上	35dまたは25dフックつき	25dまたは15dフックつき	10dかつ15cm以上	40dまたは30dフックつき
	27.0(24.0)以下				
SD345	13.5以上 21.0未満	40dまたは30dフックつき			45dまたは35dフックつき

(注) ()内は軽量コンクリートの場合を示す

継手

1. 末端のフックは、定着および継手長さには含まれない。
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
3. 直径の異なる材の継手は、細い材の継手長さとする。 $H = 1.4d \sim 1.6d$
4. 直径が2.8mm以上の場合は、重ね継手としてはならない。 $L = 0.9d \sim 1.2d$
5. 鉄筋径の差が7mmを越える場合は、圧接としてはならない。偏心は $d/10$ 以下



(4) かぶり厚さ

かぶり厚さの最小値 (JASS5.10.1表)				
構造部分の種類	コンクリートの種類	普通コンクリート	軽量コンクリート	
		土に接しない部分	床スラブ・屋根スラブ・耐力壁以外の壁	仕上げあり 20(30) 仕上げなし 30(40)
土に接する部分	柱・はり・床スラブ・耐力壁・布基礎立上り部	擁壁	40(50)	40(50)
		基礎・擁壁	40(50)	50※2(60)
			60(70)	70※2(80)

(注)

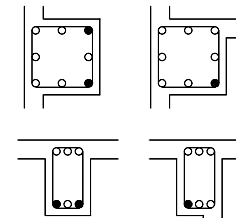
- ※1. コンクリートの品質および施工方法に応じ、工事監理者の承認を受けて30mmとすることができる。
- ※2. 軽量コンクリート1種および2種に適用する。
- ※3. ()内の値は日本建築学会の配筋指針案による設計かぶり厚さの標準値である。

(5) 鉄筋のあき

- 異形鉄筋 1.7d以上(鉄筋間隔2.7d以上) 丸鋼 1.5d以上(鉄筋間隔2.5d以上)
- 粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25以上

(6) 鉄筋のフック (a~fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)

- 丸鋼
- あばら筋、帯筋
- 煙突の鉄筋
- 柱、梁(基礎梁は除く)の出すみ部分の鉄筋(右図参照)
- 単純梁の下端筋
- その他、本配筋標準に記載する箇所



上図の●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要

3. 使用構造材料

(1) コンクリート

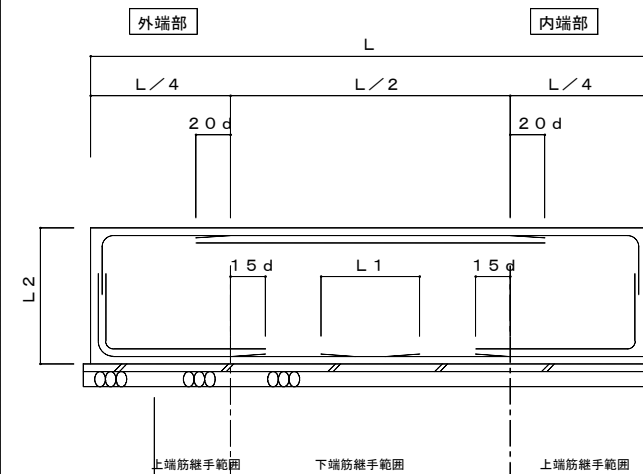
適用箇所	種類	設計基準強度 N/mm ²	スランプ cm	備考
捨コンクリート	普通	$F_c = 13.5$ (15)	20	
土間コンクリート	普通	$F_c \in (18, 21)$	18	
基礎、基礎梁	普通	$F_c \in (18, 21, 24)$	18	

単位水量は1850N/m³以下を原則とする。

(2) 鉄筋

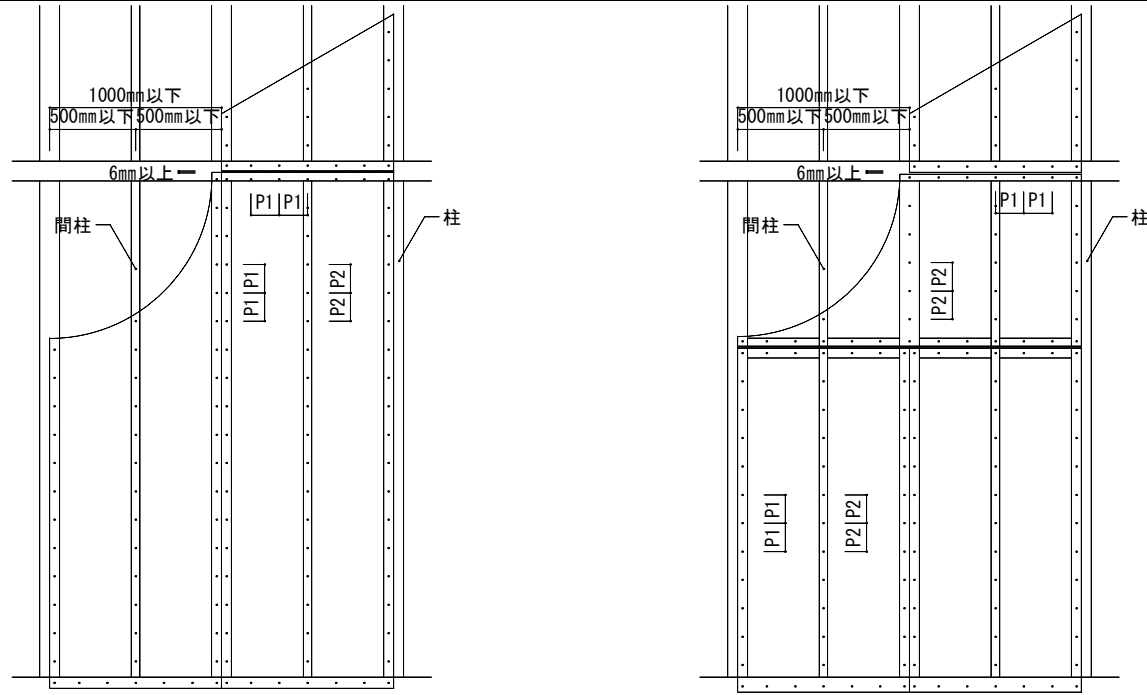
	材料	径	使用箇所
異形鉄筋	□SD295	(D10), (D13), D16	梁、スターラップ、スラブ、壁筋
	□SD345	D16, D19, D22, D25	床、梁、主筋

4. 基礎梁

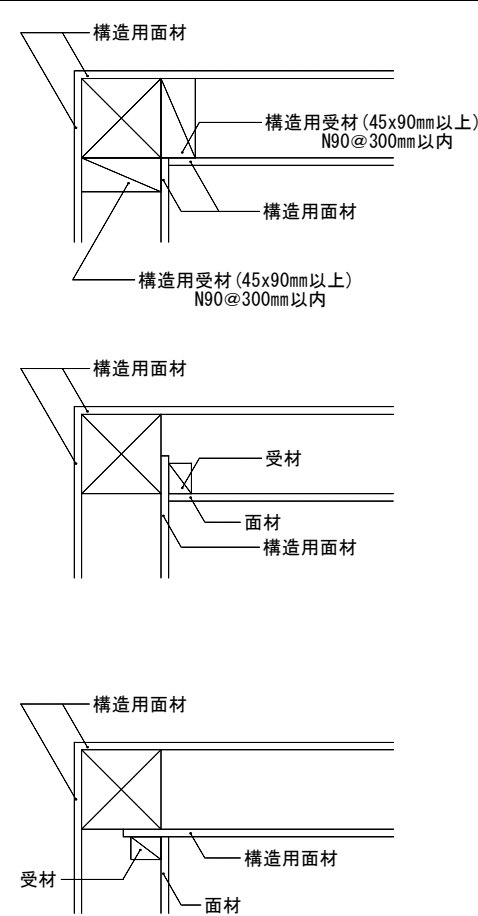


適用		設計年月日	変更年月日	承認	承認	担当	工事名称	図面番号
							木造基礎用鉄筋コンクリート構造配筋標準図	S-01
							縮尺 S=---	
							構造設計者 二級建築士埼玉県知事登録第24046号 金子秀和	

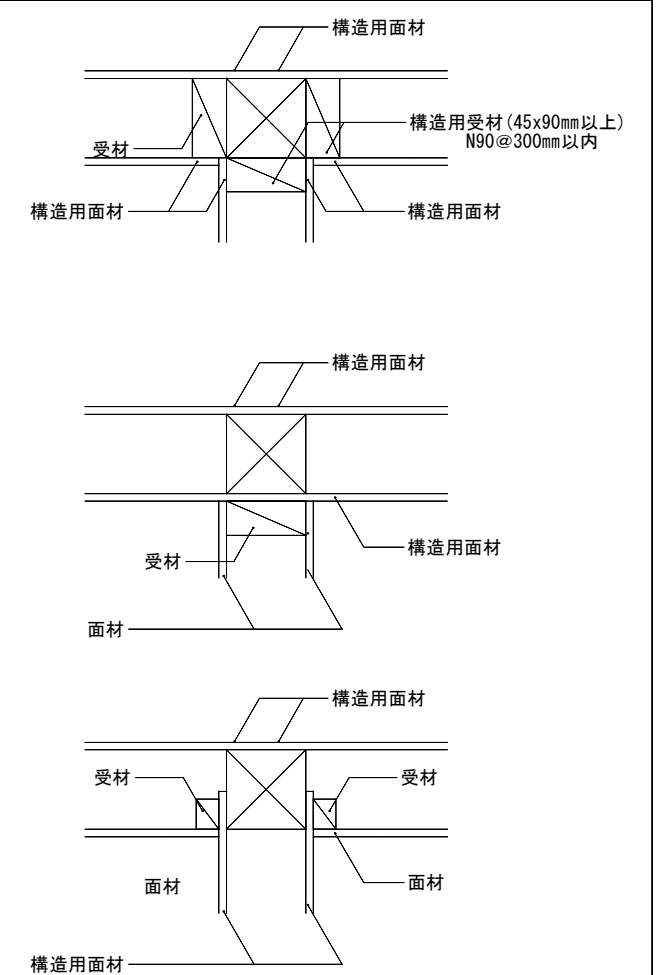
●構造用面材との取り合い



●構造用面材の隅部の取り合い



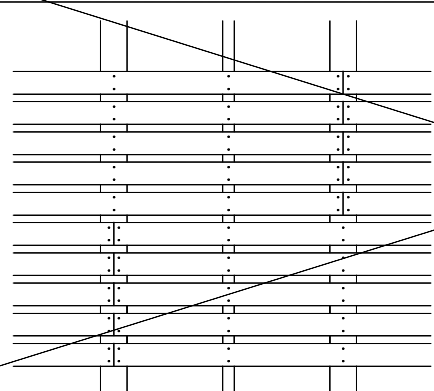
○構造用面材のT字部の取り合い



構造用面材の種類	厚み	くぎの種類	外周くぎ間隔P1	内部くぎ間隔P2	壁倍率	特記事項
○構造用合板		N50	150mm	150mm	2.5	
○パーティクルボード		N50	150mm	150mm	2.5	
○構造用パネル		N50	150mm	150mm	2.5	
○ハードボード		N50	150mm	150mm	2.0	
○硬質木片セメント板		N50	150mm	150mm	2.0	
○構造用合石こうボードA種		GNF32またはGNC40	150mm	150mm	1.7	
○構造用合石こうボードB種		GNF32またはGNC40	150mm	150mm	1.2	
○ラスシート		N38	150mm	150mm	1.0	
○シーリングボード		SN40	150mm	200mm	1.0	
○石こうボード		GNF32またはGNC40	150mm	150mm	0.9	
●ダイライトMS	9mm	N50	200mm	100mm	2.5	外周一般

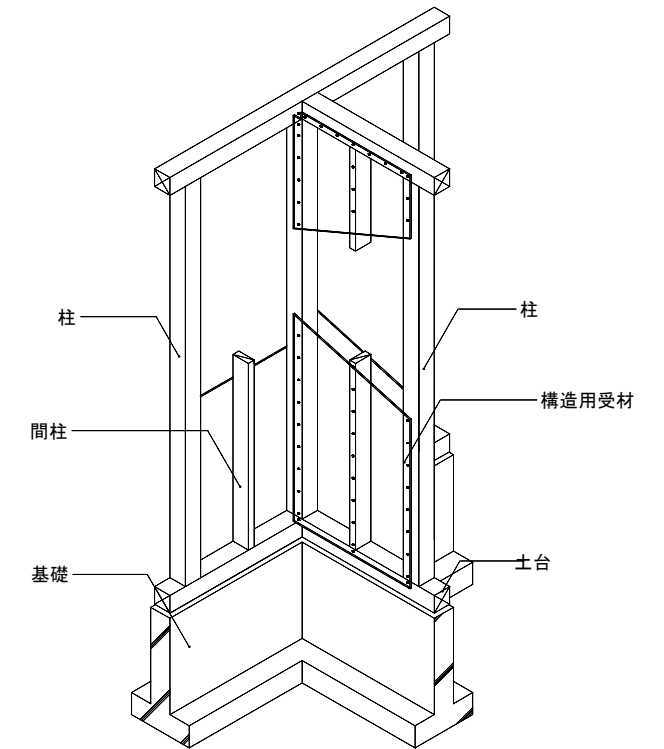
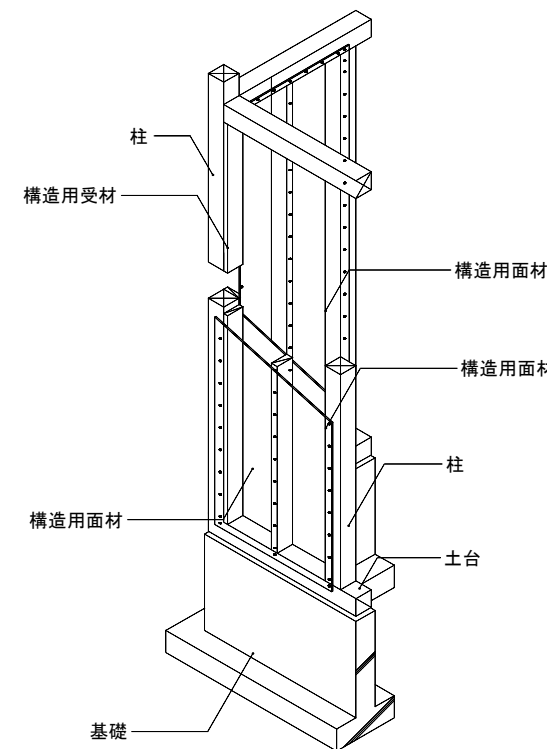
注 パーティクルボード・構造用パネル・ハードボードの突き合わせの間隔は、胴差緒がいの部分で2~3mmあける。

○木ずりの取り合い



種類	断面寸法	くぎ打ち	特記事項
○木ずり	() (x)	柱・間柱へそれぞれ N50、2本平打ち	
○			

注 継手は、柱、間柱心で突き付け、5枚以下毎に乱継ぎとする。



適用	設計年月日	変更年月日	承認	承認	担当

構造設計者 二級建築士埼玉県知事登録第24046号 金子秀和

工事名称	図面番号
図面名 木構造標準図(4)	S-06
縮尺 S=1/40 S=1/10 S=1/30	

